

令和 7 年度小平市立小平第十小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

- ・本校の平均正答率は全国平均正答率より 5.2 ポイント高く、東京都平均正答率より 2 ポイント高かった。
- ・「読むこと」に関する事項の本校の正答率は東京都平均正答率を 1.4 ポイント低く、6 割を下回った。

課題

- ・叙述に基づいて、文章がどのような構造になっているか、どのような内容が書かれているかを把握する力を身に付けることが必要である。
- ・児童自身が叙述を基に、文章の構成や展開を捉え、内容を理解したくなるような授業改善を行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・「価値ある課題設定」を行う。学習のゴールを提示するなど、児童が学びたいような課題設定を行い、主体的に文章を読もうとする態度を育む。
- ・「文章構成」「心情」「山場」「要約」「要旨」など用語を押さえながら、6 年間で系統的に理解を深めていく。
- ・読書タイムの充実、学校図書館の機能や教材教具の充実を図り、児童が意欲的に学ぶ学習環境づくりを推進する。

【算数】

状況の分析

- ・本校の平均正答率は全国平均正答率より 2 ポイント高く、東京都平均正答率より 1 ポイント高かった。
- ・「思考・判断・表現」を問う問題に対しての正答率は 6 割を下回った。

課題

- ・「事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考える」といった数学的な見方・考え方を働かせた授業改善を行う必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・十小算数スタンダードに沿った問題解決の流れを全学級で徹底し、授業の流れをつかみ、見通しをもって学習に取り組める授業を行う。
- ・デジタルドリルや教科書の 2 次元コード等の活用により「個別最適な学び」を行い、課題解決のための考えを共有する時間、整理・分析する時間等を確保することで「協働的な学び」を行うなど、「個別最適な学習」と「協働的な学び」の一体化を図った授業を推進する。

【理科】**状況の分析****課題**

- ・本校の平均正答率は全国平均正答率より 10.9 ポイント高く、東京都平均正答率より 8 ポイント高かった。
- ・「エネルギー」を柱とする領域の本校の正答率は 55 ポイントを下回った。

- ・特に「エネルギー」を柱とする領域の学習では実感を伴った理解を図り、深い学びを実現する必要がある。
- ・児童の関心や意欲を高めながら、そこから問題意識を醸成するような意図的な事物・現象との出会いを工夫する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・児童が身近な自然を対象として、体験を通した自然とのかかわりの中で、問題を見いだすことができるような自然の事物・現象との出会いを工夫した授業を行う。
- ・「エネルギー」を柱とする領域の学習では、ものづくりを行う活動を通して、実感を伴った理解を図る。

【質問紙】**状況の分析****課題**

- ・「国語（算数）の勉強は大切だと思いますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は 90 ポイント程度と非常に高いのに対し、「国語（算数）の勉強は好きですか」の質問に肯定的に回答した児童の割合は 50 ポイント程度であり、およそ 40 ポイントの差があった。

- ・国語や算数の学習が必要であると感じながらも、「好きですか」の質問に対して否定的な回答をする児童が多いことは「学ぶ楽しさ」を実感することができていないと考えられる。そこで、「主体的で対話的な深い学び」の視点で授業改善をしていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

- ・各教科の年間指導計画・評価計画に基づき、基礎的基本的な知識・技能の確実な習得と活用を図るとともに、「教えて、考えさせる授業」を大切に、「主体的で対話的で深い学び」の視点で授業改善を行う。
- ・教員同士が短時間でも他学級の授業を見る「拝見勉強」を行い、協議を繰り返しながら授業改善を図る。
- ・教科担任制や交換授業を全学年で実施し、教員の専門性を高める。